【中国語】

中国語を学ぼう

■大学で中国語を学ぶということ

日常生活の中で中国語圏から来た人々と接することが、誰にとっても実に多くなった。小・中・高時代にクラスや部活で中国語圏の友人がいたという人も少なくないだろう。駅や街角で中国語の漢字の案内表示や警告表示を目にし、デパートや家電量販店では中国語でのアナウンスを耳にする。中国語の会話も聞こえてくる。そして、中国・台湾からの留学生が多い一橋のキャンパスを歩いていて、中国語を耳にしない日はない。

こんな風に中国語が身近な存在になっている。だが、その社会や国について私達が持つイメージは、むしろ単純な、画一化されたものになってしまってはいないだろうか。一橋大学でこれから学ぶ皆さんには、我々は次のような期待をしている。それは、**誰かが選んで翻訳した情報**からだけではなく、**現場の情報に自らアクセス**した上で、現在問題になっているさまざまな現象について的確な分析ができるようになる、ということだ。

大学時代の自由な時間を使って、こうしたことができるレベルを目指して中国語を学んでみよう。中国語は身近に学習機会があふれている。また、独特の発音も学習者のテンションを上げてくれる。そして、比較的早い段階で辞書を引きながら文書を読めるようになるので、それなりの達成感も味わえる。105 分(高校の 2 倍！)の授業時間も、口の周りの筋肉や喉は疲れるけれども、きっと楽しみながら過ごせるだろう。

目的や目標をはっきりさせることは何事においても大切だし、効率も大きく違ってくる。将来役に立てたいと思うのなら、どう役に立てたいのか具体的なところまで考えるとよい。なんとなく将来使えそう、という理由で始めると、入学当初はフレッシュな気持ちで頑張れるのだが、11 月の一橋祭の頃には、漠然とした将来よりも今をラクにやっていきたいとか、今の部活やサークル活動を優先して…というような気持ちになる学生が出てくるのも例年のことだ。とりあえずはいろいろある検定試験を目標にするのもよいだろう。

■中国語学習の実際

「中国語は易しいと周囲から聞いた」、「漢字を使うので易しそうと思った」という履修動機もよく耳にする。でも本当だろうか？

まずは、次の漢詩を音読して下さい。

春眠不覚暁　処処聞啼鳥　夜来風雨声　花落知多少

「やだな、これ孟浩然の春暁でしょ？教科書で習いましたよ、『シュンミン アカツキヲオボエズ…』」 ストップ！ それは日本語。訓読は日本語だ。中国語で音読して下さい。「えっ!?」 そう、漢字は基本的に表音文字ではない。すなわちいくら眺めていたところで正確な発音はわからない。ということは、つまり個々の漢字の発音をイチイチ覚えなければならないということだ。ちなみに中国語の常用字は約 2500 字だ。中国語の勉強で一番難しいのはこの点かもしれない。漢字を見て、それを発音できるようになるのは相当な苦労だ。新聞や雑誌を見て、全部正確に発音できるとしたら、たいしたものだ。

さて、上の春暁の詩の読み方を記すと、次のようになる。

chūnmiánbùjuéxiǎo　chùchùwéntíniǎo　yèláifēngyǔshēng　huāluòzhīduōshǎo

「なんですかこりゃ？ローマ字？中国語なのにぃ？それに変な符号がついてる！」これはピンイン(拼音字母)という、いわば中国式ローマ字表記だ。これで発音を表記する。実はこれが一癖も二癖もあるのだけれど、それには今は触れない。ところで、中国語には声母(≒ 子音)が 21、韻母(≒母音)が 38 あり、実際にはない組み合わせをさっ引いても、ざっと 400 もの音節がある。変な記号は声調記号というものだ。中国語には 4 つの声調がある。ご承知の諸君もいるかもしれないが、同じ ma でも高く平らに発音すると「お母さん」となり、低く押さえ込んで発音すると「馬」という意味になる。先の400の 4 倍で単純に計算すると 1600もの音節がある。これが中国語の発音が難しいと言われるゆえんだ。選択したらこれキッチリ発音しわけてもらいます。単語を覚えるにはこの声調を含めたピンインをしっかりと覚えてもらわないと始まらない。本当にこれはシンドイ。学年末にアンケートをとっても、一番大変なのは発音･ピンインだという。英単語を発音記号ごと覚えろという以上に残酷だという声もあった。

ところで、さきほどの春暁の詩、今の中国では次のように書く。

春眠不觉晓　处处闻啼鸟　夜来风雨声　花落知多少

ところどころ見慣れない略字(といっても最近はあちこちで見かけるが)があるが、これを簡体字という。ちなみに、

春眠不覺曉　　處處聞啼鳥　　夜來風雨聲　　花落知多少

という字体の方は繁体字といい、台湾をはじめ、世界の華僑社会ではこちらの方が通用する。

「でも、漢字の意味は同じでしょ？ 上の詩でも意味わかります。」といわれれば、大勢としてはその通りといえよう。月は月だし、海は海。これは日本人が中国語を学習する上での最大のアドバンテージだ。しかし、フツー会話では月は“月亮”といい、海は“大海”という。上の詩にある春も“春天”というし、“闻”は現代語では「嗅ぐ」という意味だ。ここの「聞く」なら“听见”。“花”という字は“flower”の意味でもちろん使うけど、動詞“spend”としても常用される。“手纸”や“汽车”がトイレットペーパーや自動車であることはＴＶのクイズでおなじみだろう。 厄介なのは微妙にずれている場合だ。例えば“送”は中国語では直接そこまで持っていって渡す意味合いであって、郵便や宅急便で「おくる」ことがメインの日本語とはずれがある。われわれ教師がアタリマエのような字でも辞書引け、辞書引けというのにはこういう理由がある。同じ漢字だからといってナメてかかってはいけないのだ。なまじ同じ漢字を使うがための油断が怖い。ところで、次の漢字、見たことありますか？意味が分かります？

跑　站　躺　挖　踢　蹲　踩　捏　扔　拿　摆　剪

走･立つ･横になる･掘る･蹴る･しゃがむ･踏む･つまむ･投げる･持つ･並べる･切る、といった日常基本動作を表す動詞で、もちろんしょっちゅう使う。だから、新しく覚えなければならない漢字もけっこうタクサンある。

文法については、ちょいと、いやかなりヤッカイ。それは文法自体が複雑だっていうのではない、むしろ簡単な方だろう。ただ、みんなが知っている英文法から連想するような、かっちりとした、当てはめればピタリと分かるといった文法みたいなものは、中国語にはないということなのだ。英語ですらドイツ語の先生に言わせると曖昧きわまりないそうだが、そんなものではない。文法っていえば、人称変化・格変化とか、時制のことなどを連想するのだろうが、そういったのは中国語にはまったくないといってよい。目的語だって見てごらん。下の３つの文、いずれも英語で言えば第三文型　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ　　の文。さあさあ、訳してみて。

①我 吃 饺子。 ②我 吃 大碗。　③我 吃 食堂。　吃＝eat

正解は、①は「私は餃子を食べる」、②は「私は丼で食べる」、③は「私は食堂で食べる」

なんと目的語の性質によって働きが変わってくる。高名な心理学者のユングだったか誰だったか、中国語を勉強し始めてとうとう「中国語には文法がない！」とキレちゃったという都市伝説もある。こういった点はやはりある程度の場数を踏んでもらうより仕方がない。陶淵明ではないが、甚解を求めずに習うより慣れろ、理屈より実践の側面があるわけだ。曖昧だとか、例外ばかりだとか、個々の単語の使い方や言い回しばかりだということになる。とにかく辛抱強くつき合ってもらわなければならない。２年生以降、中級も履修しなければやったうちには入らない。そのつもりでこちらも１年から教えるし、伝統ある一橋の中国語は１年次にフツーの大学１年レベルは冬前に終わらせ、更に進んだところまでいく。でも、2 年間必修の他大学レベルには及ばないので、中級の継続履修を強く推奨する。

■一橋の中国語のカリキュラム概要

では、授業の実際を紹介しておこう。１ 年次は発音と文法の基礎固め。もちろん２年次以降も引き続き勉強することを前提にしたものだ。発音は口がくたびれてもやる。カラダで覚えてもらいましょう。

法学部･社会学部の学生は未修外国語が必修なので、中国語初級(総合)(週２コマ)を履修することになる。必修ではない商学部･経済学部の学生は中国語初級(総合)(週２コマ)または中国語初級(速修)(週１コマ)を選ぶことになる。週１コマの速修は旧来の第３外国語のクラスで中国語初級の一通りは学べるが、授業時間数も総合の半分なので、総合に較べ到達レベル等どうしても及ばない。旧来の一橋レベルを望むなら是非総合を履修して欲しい。さらに、積極的に勉強したい人のために、中国語初級(総合/速修)Ⅰ・Ⅱ受講者にむけて、中国語初級(実践)Ⅰ・Ⅱという中国語を母語とする教員によるオーラル中心の授業も開講している。(初級(実践)だけを履修しても文法面が追いつかず落伍する) 中国語をモノにしようとしている人、２年で中国語中級会話クラスを受講しようと考えている人には必修といってもいい。

総合を履修し、秋深まり文法の基礎が終わる頃には、辞書を引き引き新聞や小説がソコソコ読めるようになり、面白くなってくる。ここからは経験を積む世界だ。辞書との格闘が始まる。

２年次は中級。１年間頑張ったのだから、ぜひ中級も履修してほしい。内容別に、読解力を養成するクラスと、中国語ネイティブの教員による会話・作文指導など実用面重視のクラスがある。後者は近年力を入れている分野で好評だが、１年でテキトーに済ませていた者には厳しい。HSK(漢語水平考試=中国語版 TOEFL みたいなもの)に特化したクラスも現在開講している。

３年次以降の上級では、さらに運用能力をのばし、実用的な文献の読解スキルまで学ぶ。

それでは、４月に皆さんと教室で会えるのを楽しみにしている。

★既に初級中国語能力のある者は注意して下さい。

具体的には以下の様な学生です。

・中国語が母語または準母語である学生

・中国語圏からの帰国子女

・家庭内で親などと中国語で会話できる学生

・高校･他大学などで初級中国語(大学 1 年レベル、中検 4 級程度)履修済み

・中国語初級の各科目(総合/速修/実践)は**初めて中国語を勉強する人を対象**の講義ですので、選択しても、あなた自身の為にもなりませんし、周囲の学生にも迷惑になります。

・選択しても優遇措置はありません。他の初修の学生と同じく、bo po mo fo からまたやることになります。退屈だろうと、毎回遅刻することなく出席し、居眠りせず受講しなければなりません。

・中国語初級を履修中の者は中国語中級･上級は履修できません。

・中、上級中国語を受講してそれを中国語初級(総合)や各初級中国語科目に振り替えるような措置はありません。

・法社必修第 2 外国語に他の言語を選択すれば、初級中国語習得済みの学生は、中国語中級・上級を 1 年生から履修して磨きをかけられます。また、中国語以外の新しい言語にチャレンジして更に世界に視野を広げることは、とても有意義なことです。